

令和5年度第1回山陽小野田市文化財審議会 議事録

- 日 時 令和5年7月28日(水曜日)午後1時30分から午後3時30分まで
- 場 所 山陽小野田市民館 団体会議室
- 出席委員 磯部吉秀委員、瀬口哲義委員、田畑直彦委員、土井浩委員、畠中茂朗委員、山本明史委員
- 事務局 市教育委員会 長友教育長、矢野社会教育課長、安藤課長補佐、石田係長、市歴史民俗資料館 若山館長
- 会議次第
 - 1 開会のことば
 - 2 辞令交付
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員・事務局紹介
 - 5 議 題
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 山陽小野田市指定文化財の現状と課題
 - (3) 国史跡「周防灘干拓遺跡高泊開作浜五挺唐樋」について
 - 1 浜五挺唐樋に関する文献資料の調査成果について
 - 2 今後のスケジュール
 - 6 その他
 - 7 現地視察
 - 国指定重要文化財 旧小野田セメント製造株式会社竪窯
 - 国指定史跡 周防灘干拓遺跡高泊開作浜五挺唐樋

開会

事務局

皆さんこんにちは。会議前に書類の確認をさせていただきたいと思います。机上に本日の資料を配布しております。まず本日の会議次第、次に文化財審議委員の名簿、議事2資料糸根の松原の資料と文化財一覧、議事3資料浜五挺唐樋保存活用計画の目次、浜五挺唐樋構成要素位置図、最後に本日現地視察いたします浜五挺唐樋と徳利窯の資料になります。事前にお配りしている資料として議事(2)山陽小野田市指定文化財の現状と課題、議事(3)国史跡「周防灘干拓遺跡高泊開作浜五挺唐樋」について、以上になります。皆様お手元に資料はお揃いでしょうか。

それでは定刻になりましたので令和5年度第1回山陽小野田市文化財審議会を開会いたします。本日は、お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

議題(1)で会長が選出されるまで司会を務めさせていただきます。私、社会教育課の石田と申します。

辞令交付

事務局

それでは、会議次第2の辞令交付になります。はじめに、委員委嘱の辞令を交付させていただきます。順次教育長が参りますので、その場でお待ちください。

教育長挨拶

事務局

続きまして会議次第3教育長あいさつ、教育長よろしく願いいたします。

教育長

こんにちは。6月7日付で新しく教育長を拝命いたしました長友と申します。よろしくおねがいたします。ようやく梅雨も明けたかと思いましたが連日猛暑で先ほど車の温度計を見ると42.5度とありましたが、このあと現地視察がありますが、よろしく願いいたします。

先ほど委嘱の辞令を交付させていただきました。委員の皆様にはお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。委員の任期は申しましたとおり令和5年6月1日から令和7年5月31日までの2年間で、専門的・学術的な立場から本市の文化財行政へのご意見を賜りたいと存じております。よろしく願いいたします。さて、国・県においては文化財の修理技術者や、用具・原材料の確保・支援等を継続的に進めるための5か年計画として「文化財の匠プロジェクト」を策定し、持続可能な文化財の保存と活用のための方策が進められています。そうした中、本市在住の荒川製畳所の荒川有三氏が「畳の手縫い藁床」の選定保存技術者として、令和5年7月21日に国文化財審議会の審議・議決を経て文部科学大臣に対し答申されるという大変嬉しいニュースがありました。このことはテレビ新聞などでも報道されたところでございます。

本市においても文化財の保存と活用は大きな課題でもあります。その一つである浜五挺唐樋については昨年、2年間の継続事業として、今年度中に保存活用計画を策定する予定としております。このことにつきましても、この後ご審議いただくこととしております。また、本日審議が終わりましたら、現地視察に2か所行

く予定にしています。暑い中ではありますが、よろしく願いいたしたいと思います。

最後になりますが、歴史民俗資料館におきまして、現在「洞玄寺所蔵 十六羅漢像」という企画展を開催しております。お時間がありましたらぜひご覧いただきますようお願いいたしまして、私のあいさつといたします。本日はよろしくお祈いします。

事務局

ありがとうございました。

委員・事務局紹介

事務局

続きまして会議次第4委員・事務局紹介、出席者の自己紹介に移ります。今期から新たに3名の委員に加わっていただきました。委員名簿を配布しておりますのでご覧ください。順番に自己紹介をよろしくお祈いいたします。

～ 委員自己紹介 ～

事務局

委員の皆様、ありがとうございました。引き続き、事務局の自己紹介をさせていただきます。

～ 事務局自己紹介 ～

審議会の進行について

事務局

続きまして会議次第5議題です。議題に入ります前に、本日の進め方ですが、時間が限られておりますので午後2時15分を目途に議案を終えたいと思います。その後、2か所の現地視察を行います。当初の終了時間を午後3時としておりましたが、終了時間は午後3時半頃となります。終了時間が遅くなりますことお詫び申し上げます。また審議会等につきましては、公表用の議事録作成とその公開等をするようになっております。本日の審議会に関しましても、公開とし、会長が作成する議事録の作成を事務局に一任していただくことについてご了解をいただきたいと思います。委員の皆様いかかでしょうか。

委員

～ 了承 ～

事務局

ありがとうございます。審議会終了後、速やかに事務局にて議事録の作成を行い、市長決裁の後、市ホームページに掲載させていただきます。

会長・副会長選出

事務局

それでは議題に入りたいと思います。(1)会長・副会長の選出について。これにつきましては、山陽小野田市文化財審議会規則第2条に明記してございます。会長及び副会長各1名を、委員の皆様の互選により選出していただきたいと思ひます。ご推薦等ございましたらお願いいたします。

無いようでしたら、事務局で案を持っておりますので提示してもよろしいでしょうか？ありがとうございます。前期から委員委嘱させていただいております田畑委員に会長を、副会長には磯部委員にお願いしたいのですがいかがでしょうか。

委員

～ 了承 ～

事務局

ありがとうございます。確認させていただきます。会長に田畑委員、副会長に磯部委員に決定ということでもよろしくお願ひ申し上げます。それでは司会進行を田畑会長よろしくお願ひいたします。

議題

田畑会長

よろしくおねがひいたします。それでは早速ですが議題に入りたいと思ひます。議題(2)山陽小野田市指定文化財の現状と課題についてです。事務局より事前に資料配布がありましたので委員の皆様もご一読されたかと思ひます。まずは事務局から説明をお願いいたします。

事務局

よろしくお願ひいたします。資料につきましては皆様に事前に配布させていただいておりますA3横向き2枚の資料をお手元にご準備ください。それでは、山陽小野田市指定文化財の現状と課題についてご説明いたします。課題を記載しているもののみご説明させていただきます。まず初めに、国指定文化財では、周防灘干拓遺跡高泊開作浜五挺唐樋について、現在、保存活用計画策定委員会で協議中でございます。議題(3)で文献資料の調査成果についてご報告させていただきます。後ほど、現地視察を行う予定にしておりますのでよろしくお願ひいたします。

次に、旧小野田セメント株式会社竪窯德利窯です。現在れんがの外壁の剥離が進んでおります。現在状態について注視しているところでございます。こちら後ほど現地視察に参ります。前の画面に写真を写しております。後ほど現地視察でも実際に見ていただければと思ひます。

次に、「絹本著色雪舟等楊像」ですが、資料の訂正をお願いいたします。資料では、指定年月日を令和5年度中と記載しておりますが、令和5年6月27日に国指定文化財に指定されました。令和5年度中を令和5年6月27日に訂正をお願いいたします。こちらの文化財ですが所有者が県に寄贈されたため、所有者が個人から県に変更されました。次回から、こちらの表から削除いたします。

続きまして、県指定文化財では長光寺山古墳出土品の鉄製品について保存処理が必要となっております。順次保存処理を行っております。また、現在山口県立山口博物館で開催中の「やまぐち大考古博」で長光寺山古墳出土品の三角縁神獸鏡など6点ほど展示がされております。「やまぐち大考古博」に行かれ

た際は、ぜひご覧ください。

次にハマセンダンです。昨年、樹木医の指導のもと、環境に影響が無い形で周辺木々の伐採を行っております。その後の状態の確認を引き続き行ってまいりたいと思っております。

資料の2枚目をご覧ください。市指定文化財、糸根の松原については後ほどご説明させていただきます。

次に、且の登り窯です。令和2年から令和7年にかけて、且の登り窯の覆い屋をブロックごとに分けまして順次修復を行っているところでございます。ですが、台風などの影響により修復範囲が広がったため、計画を追加と考えております。画面の左ですが修復の様子です。右側の写真は窯のまち「ウォーク」で田畑委員にガイドしていただいている際の写真を載せております。

続きまして古式行事については今年、4年ぶりに古式行事を披露する予定としております。指導者について後継者を育てる必要があり、また参加者募集についても現在苦慮しているところでございます。

事務局

糸根の松原についてのご説明をいたします。お手元に別資料としてお配りしておりますホッチキス止めをしている資料のご準備をお願いいたします。まず現状について、画面をご覧ください。糸根の松原については青年の家という施設の中で国道沿いに松が分布しております。左側の写真の右手に道が通っておりますが、こちらは旧国道になります。植生のセブンイレブンの対面にあたる場所です。右の写真では右端に映っている天文館という建物があり、その施設の前にある松の様子です。皆様にお配りしている分布図の中に天文館という建物がございますが、ちょうどその天文館の前にあたる部分が、今右手にお示ししている写真です。何年も続けて、松が枯れてきている状況が見受けられます。左側の写真が少し茶色になっている箇所、こちらは幹が大変細いのですが、おそらく大きい松から種が落ちて、そこから新たに植生をしているような松が生えている状況が多く見られます。中には大きい松も塩害等で、茶色になったりしている箇所も見受けられます。左の写真のような細い松については、都市公園の中に糸根の松原がございますので、都市計画課で現状変更の許可申請を御提出いただいた後に、松の伐採をしていただいている状況です。今回この糸根の松原について、改めて資料をお出ししているのが、この糸根地区公園の青年の家を含めた施設について、ただいま開発の動きとして、新たな公園整備の予定が進んでおります。新たな施設を建設するにあたって、この糸根の松原の指定範囲が少し掛かってくる可能性がございます。具体的には山陽消防署植生出張所という左側の建物が、現在工事中で少し南側に下がる予定になっております。その上に、細く指定範囲が伸びている箇所がございますが、この辺りが場合によっては設計図の中で、少し掛かってくる可能性があるかもしれないというお話を事前にいただいております。もしよろしければ次の審議会の際に、こちらの糸根の松原について審議会の皆様からの御意見ということで、諮問をさせていただければと考えております。こちらにも事前に早めの情報としてお伝えさせていただけたらと思い、本日、資料をお配りさせていただきました。

事務局

簡単ではございますが事務局からの説明は以上になります。委員の皆様からお気づきの点等ありましたらご意見を伺いたいと思っております。よろしく願いいたします。

委員

糸根公園は計画の段階とお伺いしましたが、計画はいつから始まり、いつぐらいに完成となるか案があるのですか。

事務局

都市公園については、管理棟等の解体をこれから行っていきます。早く令和7年度から3年程度かけて、体育館の建て替え、周辺の改修を行います。体育館の候補地が数カ所あがっております。候補地の一つに今の天文館のある位置という話もあります。天文館の位置に体育館を建て替えることとなりますと直線から、先ほどご説明させていただきました糸根の松原にも関わってくると思われ。あるいは消防署の話も先ほどありましたが、国道からの入口として導線というのが、この指定範囲に関係してくると思いますので、入口の部分というかどうか改良していくのかという点についても課題となるところでございます。

委員

ありがとうございました。

田畑会長

私からよろしいですかね。事務局からご説明があったように糸根の松原について開発に伴い地域範囲の検討について次の審議会で諮問されたいとのことでした。現在、審議会の委員の中に天然記念物を専門にしている委員がおりません。次回整理させていただくにあたっては、例えば審議会規則の第4条に基づいて樹木医の方の意見を伺いたいと思っておりますが、皆さんいかがでしょうか。

委員

はい

田畑会長

それではその方向で進めていただければと思います。よろしくお願いたします。その他にご質問等がございますか。ご意見等ありましたら、この後の視察の際にいただくということにしたいと思います。

それでは、次に議題(3)国史跡「周防灘干拓遺跡高泊開作浜五挺唐樋」に移りたいと思います。教育長さんからお話にもありましたが、昨年度から保存活用計画策定のための委員会を開催されて協議が進められております。本会議では、第3回策定委員会での協議内容について事務局からご報告いただき、文化財審議会からのご意見があれば伺いたいと思います。それでは事務局から報告をお願いします。

事務局

それではご説明させていただきます。浜五挺唐樋に関する文献資料の調査成果について、ご報告をさせていただきます。お手元に目次(案)、議事3資料、A3の構成要素位置図、そちらと樋門の断面図をご準備いただければと思います。前面にも写真等を表示させていただきますので随時ご覧ください。

議事に入る前に、昨年度からの保存活用計画策定についての業務内容をお伝えいたします。令和4年度から2年間計画策定業務に現在取り組んでいます。昨年度は保存活用計画策定委員会を設置しています。浜五挺唐樋は山口市名田島南蛮樋と同一の国史跡指定を受けております関係で名田島南蛮樋の整備委員会と同一の委員に委嘱をしております。昨年度策定委員会は2回、今年度は7月6日に第1回を実施いたしました。計画策定の議論については、策定委員会を中心に取りまとめを行わせていただきます。本文化財審議会では、策定委員会終了後に報告を兼ねて、ご意見をいただく場としております。よろしくお願いたします。また昨年度はこちらの史跡の測量調査また図画業務を実施いたしました。平面図や立面図、展開図などの図面を新たに作成しております。お手元の目次(案)をご覧ください。昨年度は第1章から第3章までの素案を作成しております。一部内容が変更になる箇所もありますので、この場での配布は行いたため、ご了承ください。

それでは改めまして、議事に入ります。今年度第1回目の保存活用計画策定委員会での報告を申し上げます。お手元に議事3の資料をご用意ください。まず、これまでの所見資料としては高泊開作御新田記がございました。今回改めて普請要録という資料を歴史民俗資料館の学芸員が新たに調査研究を進めました。この普請要録については、山口県文書館が所蔵されている資料です。防長要録の土木工事に関する記事をまとめたもので、文久元年1861年に作成されています。浜五挺唐樋の記述として、普請要録には安政4年1857年の改修に関する記事が掲載されています。それらに基づき、この度、調査研究を進めてまいりました。今回の文献資料から見る価値として大きく3本柱がございます。まず1点目、安政4年改修時の主構造が現在にも残されていることについて、少し細かくお話します。資料に現状との比較検討というところがございますが、1ページめくっていただきまして、上部に図面がございます。こちらは昨年度測量し、図画業務で成果として出たものです。そちらのサイズについてそれぞれ寸法を測りまして、表記しております。資料の角に出ております絵図が、普請要録に掲載されている図面です。こちらはこの度学芸員が新たに寸法を測りまして、追記しております。そのサイズと現在の浜五挺唐樋の図面に加筆をしておりますサイズが少し誤差はございますが、ほぼ同じである、そして構造についても共通しております。当時の主構図がそのまま現在に残されているということが今回調査で新たに分かった、改めて価値付けがなされたところでございます。

続いて資料4の5と書いてあるところをご覧ください。南蛮樋より唐樋へとありますが、当初の浜五挺唐樋は三挺の南蛮樋でした。それが分かるものが下の縦長の資料にあり、こちらの画面でも拡大して表示させていただきます。図4の5の中に西南蛮樋東南蛮樋と書かれている箇所がありまして、当初南蛮樋の2か所で排水を行っていましたが、南蛮樋に狂いがあり石唐樋に居替をしたいという訴えがあったとあります。そしてあと地下、村からの依頼証にも中に入っている水が抜けづらいということで、南蛮樋から唐樋にすることで6日から4日に短縮できるとあります。このことから、この当初から南蛮樋と唐樋と呼び方を分けていることが読み取れます。五双石樋という呼び方については、安政4年の三挺から五挺に変わったところから双樋と呼び方をしていることがこの度の調査で改めて分かったところです。資料4の6をご覧ください。三挺樋と五挺樋の比較検討というところがございます。当初安政4年の改修の際に三挺から五挺に樋門が改修されたとなっております。この三挺が図4の6でございます。この三挺樋が木製であったことが、この図から読み取れるとのこと。五挺の時には石組みになっていますので三挺の木造から五挺の石組みに替えられたということも、こちらから読み取れます。続いて2点目、五双樋の双は双子の双という字を使うのですが、現在の右側の樋門と水門、遊水池樋門による構成が、この安政4年の大改修のときになされたということです。皆様分かりづらいと思いますので、御手元にお配りした図面、模式図を御覧ください。左に出ているのが海側、湾側です。こちらに現在、目視で確認ができるロクロと招き戸がついている唐樋と言われるものがございます。その下、土手の下に6メートルぐらいの現在は上に市道が通っておりますが、その下に樋門の内部で暗渠がございまして、遊水池側の樋門に繋がっている、この構造が安政4年の改修でつくられたということが今回の調査でわかったところでございます。ただ、一つ疑問・課題として残っているところが、資料4の9ですが、南蛮樋と唐樋の違いというところが出ておりますけれども、普請要録の記述から三挺樋時代は南蛮樋という記述がなされていて、五挺樋時代は唐樋というふうに言われているのですけれども、三挺樋の頃の木造の構造が従来言われている南蛮樋の構造ではないということが図面上読み取れるということでした。南蛮樋というのが招き戸ではなく、戸を上を引き上げる形となり巻き上げるための場所も必要になってくるのですが、この資料の中の4の6ページの三挺樋の図面を見ると、巻き上げる場所が見当たりません。さらに招き戸になっているところが台形になっていますので、この形では戸を引き上げるのはちょっと難しいのではないかとということで、構造的にこれを南蛮樋と呼んでいるところが疑問として残るところです。そこが課題として残っております。

最後の3点目について、先ほど五双樋のことをお話しましたがけれども、もう1点、新たに地元の古文書を

学芸員が調査を行いました。中村文書と粟屋家文書等を調査したところ、唐樋周辺の村々の役人からの献金が、この安政4年の大改修で一部充てられたというような、古文書の調査からも読み取れるということが新たに今回わかった点でございます。溝口学芸員が本日御出席して御説明するのが1番よかったのですがちょっと出席がかないませんでしたので、代弁となりました。もし、疑問点等ありましたら、まとめてまた溝口学芸員から御回答させていただきますので、この場で、もしよろしければ疑問点などございましたら、御発言よろしくお願いたします。

田畑会長

はい、ご報告ありがとうございました。委員の皆様からご意見ご質問がありましたらお願いたします。

委員

はい。南蛮樋と唐樋の違いについてです。これは僕の専門ではなく、土木屋さんの話になります。全国的にどんな呼び方がされているかというので、この地域の人は南蛮車があるものは南蛮樋で、積算割使うのでも南蛮車と呼ぶため馴染みのある言葉です。僕の考えとしては、日本人はヨーロッパもアメリカもまとめて欧米というような特有な言い方します。昔の人も海外から入ってきたものは唐物と呼んだり、南蛮と呼んだり、ひっくるめて言っている。だからと言って南蛮だからオランダやフランスか、あるいは唐だから中国なのか朝鮮なのか、そこまで昔の人が明確に記述してあるかという点を考えると、外から来た技術ということで南蛮や唐樋と書いてあるだけのもので、根本的な違いはないと思います。それと関というのは樋ですから水の通り道です。それを石で固めること、それとトンネル状にすること、これは土木的な技術の違いです。何が違うかっていうと水が走る速さです。下が筒になることによって水量の調節ができます。それから水の量があるような開け方をすると土砂が排水できる。そうした技術として、これはインターネットで調べた内容ですが、土木屋としてはマニングという方程式があります。これは水路の水を流す量、僕らが日常的に開発申請とかする時に水路を計画するときの方程式です。時間雨量が50mm降って、100mm降って、この水路が耐えられるかっていうこと、それでマニングという式を使います。インターネットで調べると、マイニングさんは1816年から1897年まで活躍したアイルランドの技術者とあります。ヨーロッパにはその前から水流に関する研究をしているものが調べたところありました。だから技術が外から入ってきたものであることから、そういう構造、つまり水量を調整する関を南蛮樋と呼んだり唐樋と呼んだりしたのだと思います。その通り道の樋と樋の蓋、そして蓋の構造、それは今でも土木構造物の中にいろんな構造があります。有帆川にあるような蓋を下から上げて水を出すような構造のもの、それからどこにあるかわかりませんが真横に開く水門、それか上から板を立ててせき止める門もあります。またこのように跳ね上げる構造、これは招き戸って呼んでいます。この文献によると招き戸と呼ぶようです。動きが招くようになるため招き戸と呼び、これはどこでも招き戸と呼んでいます。だから南蛮樋の招き戸構造だったのか、南蛮樋の上から差し込む方式で板を人力で上げるか、車を使ってあげるか、ロクロで上げるか、そういうところに各地の樋門の違いが出ています。配布資料に出ているこの南蛮樋、唐樋の違いを探るのは、その当時の人の呼び方次第でどっちでもないかもしれないと考えることも必要です。そして実際のこの構造は図面に見るとおり招き戸構造だったのか、さらにここで言うと、上からふたをする土木用語であります。木を溝の上から関板を覆って一枚ずつ板をいれる構造であったのか、そうしたことを混合して考えて問題点にする必要はないと思います。それと、全国での筆記体というのも調べてここは筆記体として書いてあるのだからこれはもういいと思います。唐樋としてよいと思います。南蛮樋から唐樋に変わったってのはちょっと焦点が違うのではないかとは思う。木造も樋になってない部分、水門であったような状態から唐樋にしたのは、おそらく排水の排水量を調整する方法ってのが、排水量が少なくなっても調整しやすいということ、つまり五本の樋を作って各自蓋をすれば計算ができるのです。1本の樋でどれだけ水が逃げると言うことについて、今はよく雨で1時間50mmと

か表現しますね。その時間雨量50mmの雨がこの400haに降ったときに、何トンの水になるか計算すると20万tという結果になります。逆に海水量1t、1本がだいたい3分の1、5本で18万となります。本当は浸水面積だから自然体の総面積、山からも含めて400haの水面だけではですし、全部に50mm降るわけでもありませんが。こうした計算的にも成り立つ、この大きさが問題ではなかったのかと思います。それと他の場所を調べると、岡山の干拓は時代が異なり100年くらい後ですけど、高泊開作浜五挺唐樋の5倍くらいつまり2000haの開拓をしています。大きさが5倍あるため5倍の水門を作って調整したとなっています。それはもう無くなっています。高泊開作浜五挺唐樋は構造が全部残っているということが資料的な価値であり文化的な価値があるのではないかと思いますので、あまり南蛮樋、唐樋にこだわって文章を書く必要はないと思います。

田畑会長

貴重な御意見ありがとうございました。現地視察でも是非よろしく願いいたします。ありがとうございます。今回のご報告にあったように、新たな発見は今後も続いていくと思います。今後必要になってくるのは、そのような発見を踏まえて常に情報を更新して発信していくための体制であるとか、さまざまな世代に向けた多様な情報発信が求められていくのではないかなと思います。

はい、時間がありませんので、続けて今後のスケジュールについて事務局からご報告をお願いします。

事務局

今後のスケジュールについてですが、浜五挺唐樋保存活用計画策定委員会を9月下旬から10月上旬に開催する予定になっておりますので、その後の11月頃に2回目の文化財審議会を開催する予定としております。またご案内等をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

田畑会長

はい。続けてよろしいですかね。ご報告ありがとうございました。続けて次第6に移りたいと思います。事務局の方からよろしく願いいたします。

歴史民俗資料館館長

はい、私の方からお知らせをします。現在、企画展洞玄寺所蔵の十六羅漢像を開催しております。この洞玄寺というのは、旧山陽町の下津にある曹洞宗のお寺でして、厚狭毛利家の菩提寺となっております。十六羅漢像は毛利元康から数えて6代目の厚狭毛利家当主毛利就盈の妻だった芳菊院がお寺に寄贈したと伝わっております。歴史民俗資料館で仏教美術の企画展は初めてです。来館者のアンケートも見ますと山陽小野田市の文化財に興味を持ったとの感想を多くいただいております。お時間のある時にぜひお立ち寄りください。よろしく願いいたします。

事務局

その他については、以上になります。

田畑会長

はい。わかりました。委員の皆様からご意見ご質問がありましたらお願いします。はい、それでは議題を終了したいと思います。皆さんどうもありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。よろしく願いいたします。

事務局

田畑会長ご進行ありがとうございました。

現地視察に移りたいと思います。10人乗りの公用車をご用意しておりますので、そちらに乗車していただきますよう、よろしく願いいたします。まず、浜五挺唐樋に行きまして、その後に徳利窯に向かいたいと思っております。こちらの会場の方にはもう戻りませんので、手荷物をもって出られますようお願いいたします。それでは、ご移動をお願いいたします。